

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 1 月 20 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21720029

研究課題名（和文） アメリカのイスラーム教徒によるクルアーン（コーラン）解釈：諸潮流と相関関係

研究課題名（英文） The Interpretation of the Qur'an of American Muslims: Trends and Relationships

研究代表者

大川 玲子 (OKAWA REIKO)

明治学院大学・国際学部・准教授

研究者番号：50434189

研究成果の概要（和文）：

アメリカのムスリムたちは移民や改宗者という背景をもつマイノリティであることから、そのクルアーン解釈も独自の傾向を持つことが明らかとなった。そこでは、男女同権や文化の多元主義といった西洋的価値観をクルアーンに読みこむことがしばしばなされる。

研究成果の概要（英文）：

American Muslims have a unique tendency in their interpretations of the Qur'an since they are minorities in their countries and they have a background as immigrants or converts. Therefore, they often read the Qur'an with western value perspectives such as gender equality and multi-culture existence.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	0	0	0
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：(1) コーラン, (2) クルアーン, (3) イスラーム, (4) ムスリム, (5) アメリカ,
(6) 聖典解釈, (7) ワドワード, (8) タフスィール

1. 研究開始当初の背景

本研究は、以下の2つの研究史、特に(1)の系譜に属すと考えている。

(1) 近現代以降のクルアーン解釈史研究
従来のクルアーン解釈研究は、Jansen『現代エジプトのコーラン解釈 *The Interpretation*

of the Koran in Modern Egypt』(1974)や Baljon 『現代ムスリムのコーラン解釈(1880-1960) Modern Muslim Koran Interpretation (1880-1960)』(1968)のように、中東や南アジアという伝統的なイスラーム諸国における近代的クルアーン解釈を対象としていたが、その後、移民が急増したこともあり、Farouki 『現代のムスリム知識人とクルアーン Modern Muslim Intellectuals and the Qur'an』(2004)がようやく、欧米で生まれた解釈を研究対象に含めた。本研究は、Farouki2004 では個別に論じられているだけの、ワドゥードなどの解釈者たちの相互関係を論じることで、アメリカのクルアーン解釈の全体像を提示することを当初の目的とした。

(2) アメリカにおけるイスラーム教徒の研究

昨今特に注目されている分野であるが、NOI (ネイション・オブ・イスラーム) などのいわゆるブラック系イスラーム集団や、中東や南アジアからの移民集団、さらには女性に関する問題に特化した社会学的な研究が中心であり、著名な思想家が生まれているにもかかわらず、思想研究は不十分である。

本研究と関連する研究としては、Webb 編 『信仰の窓：北米におけるムスリム女性の学者活動家たち Windows of Faith: Muslim Women Scholar-Activists in North America』(2000)などの女性があり、ワドゥードについての言及は比較的に見られるが、女性解釈者たちによる解釈内容・方法論・思想的背景などにはまったく触れられていないため、本研究がこれらの点について論じていきたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は主に、現在アメリカで活躍する女

性イスラーム教徒(ムスリム)のクルアーン解釈に焦点を当てるものである。ここでは、現代アメリカの解釈諸潮流について、以前のアメリカでの解釈状況をふまえて分析し、さらにそれらの関係性(批判・共感・展開など)を論じる。そして改宗者や移民からなるアメリカのイスラーム教徒によるクルアーン解釈の特徴を明らかにする。

そしてこれらを通して、アメリカのイスラーム教徒のなかで、中東などの伝統的イスラーム地域とは異なる特有のクルアーン解釈が成立しているのか、または単に伝統的解釈を継承しているだけなのかについて、検討する。

3. 研究の方法

本研究は、基本的に文献を用いて行う。これに加え、実際のムスリムの状況を把握するために、アメリカを中心に現地調査を実施し、インタビューを行った。ただしインタビューの内容は文献理解の背景としてのみ用いている。

4. 研究成果

本研究は、現在アメリカで活躍する女性イスラーム教徒(ムスリム)のクルアーン解釈に焦点を当てることを目的としたものである。そこでまず、アフリカ系(黒人)のアーナ・ワドゥード Amina Wadud (1952-) による『クルアーンと女性：女性の視点から聖なるテキストを再読する Qur'an and Woman: Rereading the Sacred Text from a Woman's Perspective』(1992,1999)を比較の中心にすえた。そしてこの解釈の比較対象として、バルラスやバラザンギといったアメリカ在住の女性のクルアーン解釈者に加え、ビラール・フィリップスやファリド・イサックといったアメリカで注目される男性のクルアーン解

積者も含めた。

初年度は女性解釈者たちが、何をクルアーン解釈を必要とする問題の場としているのかを解明することを念頭に、文献の収集・精読・分析を行った。アメリカに出張し、現地ムスリムのインタビューや資料収集も行った。

次年度はさらにアメリカにおけるクルアーン解釈の状況の概観を得るため、フィリッピンスやイサックの文献に注目し始め、資料収集・精読・分析を行い、女性解釈者たちと比較した。またロンドン大学SOASで開催されたThe Qur'an: Text, Society & Culture学会に参加し、さらにロンドン中心地と郊外のムスリム地区2か所の視察を行った。同時に関連資料収集も積極的に継続し、文献のみならずウェブ上の情報収集も進みつつある。

最終年度は、全体の総括として、アメリカのクルアーン解釈の領域において、クルアーン解釈者の権威が伝統的なものから変化していることを指摘する成果を出すことができた。日本ではオリエント学会(於東海大学)において「クルアーン解釈者の権威—古典期から現代への変遷」の発表をし、*Orient*で論文“Contemporary Muslim Intellectuals who Publish *Tafsīr* Works in English: The Authority of Interpreters of the Qur'ān”が掲載された。またアメリカとエジプトへの出張も行い、調査を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Reiko Okawa “Contemporary Muslim Intellectuals who Publish *Tafsīr* Works in English: The Authority of Interpreters of the

Qur'ān,” *Orient* 48 (2013 in press).

- ② Reiko Okawa “Islam in Hawai'i: The House of an American Billionaire Woman and Muslim Immigrants,” *International & Regional Studies* 40(2011), 95-99.
- ③ Reiko Okawa “The Qur'an: the Voice of Islam by Yasushi Kosugi (Tokyo: Iwanami Shoten, 2009)” *Journal of Annals of Japan Association for Middle East Studies* 26(2010), 185-189.

[学会発表] (計3件)

- ① Reiko Okawa “Japanese Translations of the Qur'an : Transitions in style and stance,” The International Association for the History of Religions (IAHR), University of Toronto, Canada, August 20, 2010.
- ② Reiko Okawa “Fethullah Gülen's Interpretation of the Qur'ān as a Contemporary *Tafsīr*: Between Modernity and Tradition,” International Conference on the Hizmet Movement and Thought and Teachings of Fethullah Gülen: Contributions to Multiculturalism and Global Peace, National Taipei University, Taiwan, December 9, 2012.
- ③ 大川 玲子「クルアーン解釈者の権威—古典期から現代への変遷」日本オリエント学会, 東海大, 2012年11月25日

[図書] (計3件)

- ① 大川 玲子 (単著) 本研究の成果が、平凡社新書として2013年前半に刊行予定。

- ② 大川 玲子 (共著) 「人は運命に逆らえるのか—運命と自由—」、直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学4 自由とは』(岩波書店、2012)、61-100

- ③ 大川 玲子 (共著) 『『コーラン』と『コーランを読む』—コトバの深奥へ—」、坂本勉・松原秀一編『井筒俊彦とイスラーム 回想と書評』(慶応義塾大学出版会、2012)、321-331

[その他]

ホームページ等

- ① <http://fis.meijigakuin.ac.jp/ks-j/information/staff/okawa-reiko>

- ② <http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism/shoinpr/ofile/okawa.htm>

6. 研究組織

(1)研究代表者

大川玲子 (OKAWA REIKO)
明治学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：50434189

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし